2025 年 12 月

2025 年度 BCOJ ボード委員会活動報告

ビール酒造組合 国際技術委員会 議長 木野 博康
事務局長 小泉 智洋

2025 年度のビール酒造組合国際技術委員会（Brewery Convention of Japan、以下 BCOJ）ボード委員会の活動につきまして、以下のとおりにご報告いたします。

記

2025 年度の国際技術委員会は、下記のメンバーで活動した。

議長	潮井 徹	（4 月まで）	（サッポロビール(株)）
	木野 博康	（5 月から）	（サッポロビール(株)）
ボード委員	寺西 健		（サントリー(株)）
	永井 次郎	（6 月まで）	（キリンビール(株)）
	森木 博之	（7 月から）	（キリンホールディングス(株)）
	中村 勇一	（11 月まで）	（アサヒビール(株)）
	山下 博司	（12 月から）	（アサヒビール(株)）
	樽岡 誠	（4 月まで）	（オリオンビール(株)）
	儀間 敦夫	（5 月から）	（オリオンビール(株)）
分析委員長	室 公志	（3 月まで）	（キリンホールディングス(株)）
	白石 佳代	（4 月から）	（キリンホールディングス(株)）
プログラム委員長	加野 智慎		（キリンホールディングス(株)）
専務理事	小野里 俊哉		
審議役	金井 秀樹	（8 月まで）	
	伊藤 俊哉		
	宮部 清敏		
	水嶋 俊之	（9 月から）	
事務局長	小泉 智洋		（サッポロビール(株)）

【活動内容】

2025 年は BCOJ 活動の目的の実現に向けて、国際技術委員会を 4 回、分析委員会を 7 回、プログラム委員会を 14 回開催した。海外学会への参画として 8 月に Brewing summit 2025 に出席した。

＜BCOJ 活動の目的＞

1. ビール醸造及び関連産業に於ける原料、資材、生産物を評価するための分析法の統一
2. ビール製造技術者相互交流による科学的、技術的研究の促進
3. 同様の目的を持つ他の国外及び国内の組織との協働

1．海外関連団体との技術交流

(1) Brewing summit 2025 への参加について

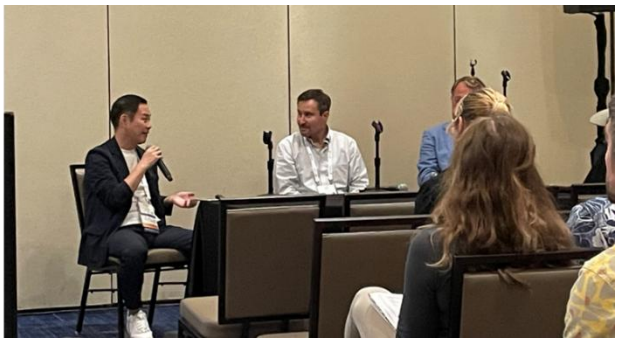
2025 年 8 月 12 日から 8 月 15 日まで、パームデザート（アメリカ、カリフォルニア州）で開催された Brewing summit 2025 に参加した。次期議長である Professor Katherine Smart と面会した。BCOJ 年次大会への参加については残念ながら都合が悪く叶わないとのことであったが、次々期の議長となる Mr. Amaey Mundkur に来日頂けることとなった。

先方のボードからの要請により、BCOJ の木野議長がパネルディスカッションへの参加ならびに「Focus session titled “Global Perspectives in Brewing Science: Trends, Innovations, and Challenges Across Borders.”」と題したプレゼンテーションを行った。







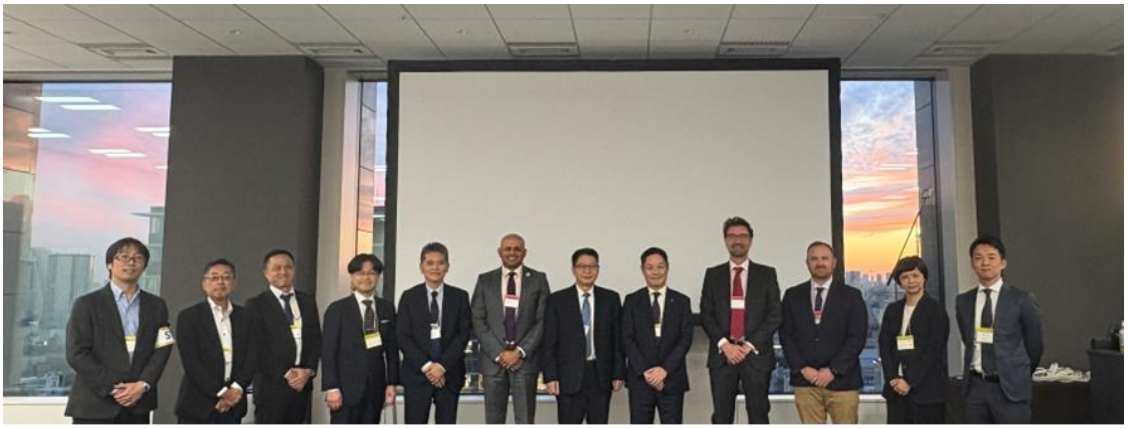


(2) BCOJ 年次大会の開催について

2025 年 11 月 6～7 日、TKP プレミアム京橋において第 34 回 BCOJ 年次大会を開催した。技術発表に加え、設備サプライヤーの展示、クラフトビール醸造所の展示・試飲を通じて、加盟ビール各社、関係官庁、企業等から 350 名の参加者が魅力的な商品の開発や美味しさの実現、品質保証、に関する技術的知見の向上につながる、活発な技術発表と意見交換を行った。

ASBC からは ASBC 次期議長の Mr. Amaey Mundkur、ASBC Asia Liaison Officer の Dr. Xiang Yin を迎え、「Brewing Innovation」と題した基調講演をいただいた。また、EBC からは EBC 議長の Mr. Paul Lefebvre を迎え、「“Science and Technology in Brewing: The Role Played by the European Brewery Convention」と題した基調講演をいただいた。

招待講演として、Boston Beer Company の Dr. Daniel Vollmer による、「Product Design Through Sensory and Chemical Insights: Case Studies in IPA and Alcoholic Iced Tea」、日本たばこ産業株式会社の大瀧 裕樹氏による「Logic & Magic：20 世紀から 21 世紀へのパラダイムシフト -JT における実験：心の豊かさを中心とした挑戦」と題した講演をいただいた







2. ボード委員会の開催

(1)第 1 回ボード委員会（4 月 10 日：キリンビール北海道千歳工場）
【主な議題】①BCOJ 功績賞受賞者審議を行なった。②Brewing summit 大会における BCOJ の取り組みを審議した。③BCOJ 年次大会開催を議論した。④Analytica EBC からの BCOJ 分析法の引用打診について審議した。

(2) 第 2 回ボード委員会（9 月 11 日：サッポロビール九州日田工場）
【主な議題】①BCOJ 功績賞推薦について議論した。②BCOJ 年次大会の内容について詳細確認を行った。③Brewing summit 大会の出張報告を行った。④WHO の規制強化に対抗するためのビール酒造組合の取り組みについて議論した。

(3) 第 3 回ボード委員会（11 月 6 日：ビール酒造組合）
【主な議題】①2024 年の予算着地見込み、2025 年予算案の検討を行った。②BCOJ 功績賞推薦について議論した。③Drinktec 出張報告を行った。

(5) 第 4 回ボード委員会（12 月 5 日：ビール酒造組合）
【主な議題】①2024 年活動振り返り、及び 2025 年活動計画の確認を行った。②BCOJ 功績賞推薦者について議論を行った。

以上

（文責：小泉 智洋）

2025 年 12 月

2025 年度 BCOJ 分析委員会活動報告

分析委員会委員長　白石　圭代
副委員長　下津　智志

2025 年度の分析委員会は下記メンバーで活動した。2025 年 1 月 1 日より 12 月 31 日の活動期間を通じ、分析委員会を 7 回開催した。

委員長：	室　公志	3 月まで	（キリンホールディングス（株））
	白石　圭代	4 月から	（キリンホールディングス（株））
副委員長：	下津　智志		（アサヒビール（株））
委員：	白石　圭代	3 月まで	（キリンホールディングス（株））
	藤本　瞳		（アサヒビール（株））
	徳里　望	3 月まで	（オリオンビール（株））
	仲村　周	4 月から	（オリオンビール（株））
	渡辺　敬之		（サッポロビール（株））
	橋本　卓哉	3 月まで	（サントリー（株））
	神田　直人	4 月から	（サントリー（株））
ビール酒造組合審議役：			
	金井　秀樹	8 月まで	
	伊藤　俊哉		
	宮部　清敏		
	水嶋　俊之	9 月から	

1．BCOJ 共同実験

（1）LC-MS によるビール中のアラビノキシラン分析法

2023 年から取組を継続している。2024 年に各社の分析結果から統計解析を行った結果、BCOJ ビール分析法として成立させることは困難な状況であったため、2025 年も幹事会社を中心に課題を整理し、ばらつきの要因検討や分析条件の見直しを行っている。移動相や内部標準を改善し、幹事会社で前処理したサンプルを各社で一斉に分析することで、機器間もしくは会社間の差がないか確認している段階である。一方で、各社でカラムや機器の不具合が生じたため、年初計画から遅延している状況である。各社の分析体制が整った状態で再度分析を行い、本共同実験の継続可否判断を早期に行っていく（幹事会社：サントリー（株））。

（2）次期共同実験

各社からテーマ案を持ち寄り、「LC-MS による糖分析」、「GC-MS によるノンアルコール RTD のアルコール分析」、「アルコライザー15℃でビール類を測定する方法の以外法化」の 3 テーマに絞られている。各社にニーズや共同実験での取組の意義を再確認し、実現可能性を含めて優先度を決定し、アラビノキシラン分析法の進捗状況を確

認しながら検討を進める。

２．BCOJ ビール分析法の改訂について

ビール分析法は 2013 年の CD-ROM 版が最新で、それ以降更新されていない状況にあったが、2024 年末までに 120 法の全ての校正が完了し、ビ組を通じて日本醸造協会へ提出した。2025 年は、PDF の最終確認を行い、日本醸造協会から購入して全分析法を一括ダウンロードする形式（電子版）に移行した。EBC や ASBC のように分析項目ごとのダウンロードが望ましいが、その場合、個別管理の問題もあり今後検討が必要となる。分析委員会では、ダウンロード PDF の共有や取扱いについて、以下のように各社で認識を合わせた。

「電子版であり、広範囲で共有が可能ではあるが、ビ組・日本醸造協会間で取扱いは購入者個人のみと決定している。複数人での共有は、社内の研修等で一部抜粋して使用する範囲で許可する。」

３．2025 年度 BCOJ 勉強会

各社から選抜した複数の候補演題と講師の中からテーマを決定した。事前に講師と勉強会の内容を相談し、以下内容で勉強会を開催した。虫や微小な異物解析に加え、食品サンプルでの異臭解析を中心に、実例とともに解析フローやポイントを紹介いただいた。また、ビールの味や香りの分析に関する情報や知見も紹介いただき、各社分析担当者だけでなく商品開発者にとっても有意義な勉強会となった。

日 時 ：2025 年 10 月 3 日（金）15:30～17:00
方 法 ：ビ組会議室（審議役、分析委員）及び Microsoft Teams によるオンライン会議
出席者：ビ組審議役含め加盟各社から約 80 名が参加
テーマ ：①異物クレームの現状と分析手法について
②ビールを試料としての味香り分析の事例紹介
講師 ：ユーロフィン QKEN 株式会社
コンサルティング部 異物分析グループ 権藤 和修 氏
コンサルティング部 おいしさコンサルティンググループ 重永 哲也 氏

４．国際協力活動

・ASBC Technical Committee への参加

2025 年 8 月 12 日、ASBC 分析委員会が Brewing Summit2025 の前日に開催された。委員長がオンラインでの参加、ビ組審議役 1 名が現地参加となり、計 2 名が参加した（ASBC 側は 12 名）。当日は委員長による BCOJ 活動報告を実施した。

５．微生物分科会活動

４月に分科会活動をキックオフし、９月に BCOJ 微生物分析法の改訂箇所を一通り確認、共有した。用語の定義の見直しも適宜行っており、ビール有害菌という表現は人体への有害性との混同される懸念もあることや各社での現状も踏まえ、ビール混濁菌、もしくはビール危害菌へ変更することとした。微生物テキストは改訂が 20 年近く行われていないため、「新しい微生物検査技術」のところで PCR や PFGE の 2 つのみが記載されているため、モバイル型シーケンサーMinION や MALDI-TOF MS による菌種同定などを追加していく方針である。

６．情報公開活動

特になし

以上

（文責：下津　智志）

2025 年 12 月

2025 年度 BCOJ プログラム委員会活動報告

プログラム委員会委員長 加野　智慎

1. メンバー

2025 年度のプログラム委員会は、下記のメンバーで活動した。

委員長：	加野 智慎（キリンホールディングス株式会社）
副委員長：	秦 悠斗（サントリー株式会社）
委員：	山本 あかね（アサヒビール株式会社）
委員：	手崎 聡（サッポロビール株式会社）
ビール酒造組合審議役：	金井 秀樹（8 月まで）
	伊藤 俊哉
	宮部 清敏
	水嶋 俊之（9 月から）

2. 活動目的

BCOJ の活動目的である、「ビール製造技術者相互交流による科学的、技術的研究の促進」「同様の目的を持つ他の国外及び国内の組織との協働」の役割を担う BCOJ 年次大会の企画運営を軸に活動を行った。

3. 活動概要

2025 年度のプログラム委員会は計 14 回（定例 6 回、臨時 8 回）を開催した。

2025 年の BCOJ 年次大会は、11 月 6 日、7 日の 2 日間で開催した。今年も継続して「日本のビール醸造業界全体の技術レベルの向上の一助となる」を掲げ、運営・大会コンテンツの改善に取り組んだ。参加者、参加企業ともに過去最大となり、参加登録者数は 353 名、BCOJ 加盟会社を除く 32 の会社・団体からの参加となった。参加人数・団体の増加は、BCOJ 加盟会社のみならずクラフトブルワリー、関連サプライヤー/メーカーも含めた業界全体にとっても有益な大会を提供できていることの示唆であると考える。

大会の主なコンテンツは、EBC symposium 及び Brewing summit の再演 17 題（オーラル 5 題、ポスター12 題）、ASBC (American Society of Brewing Chemists)次期議長である Amaey Mundkur 氏による基調講演「Brewing Innovation」、JT (日本たばこ産業株式会社) 執行役員 大瀧　裕樹氏による招待講演「Logic & Magic：20 世紀から 21 世紀へのパラダイムシフト-JT における実験：心の豊かさを中心とした挑戦-」、Boston Beer Company の Daniel Vollmer 氏による特別講演「Product Design Through Sensory and Chemical Insights: Case Studies in IPA and Alcoholic Iced Tea」、EBC (European Brewery Convention)議長である Paul Lefebvre 氏による基調講演「Science and Technology in Brewing: The role played by the European Brewery Convention (EBC)」、クラフトブルワリー 4 団体（UCHU BREWING（うちゅうブルーイング）、エチゴビール、Little Hollow Brewing、日本クラフトビール業界団体

連絡協議会（クラビ連））によるフラッシュトーク並びにポスター発表、サプライヤー/メーカー4 社（片岡物産株式会社、ダニスコジャパン株式会社、Fermentis、株式会社島津製作所）による技術展示を行った。

コンテンツの質・量ともに高いレベルで、参加者同士の交流も盛んに行われ、実りある年次大会となったと評価している。大会開催については多数の方から継続を支持されており、今後も更なる変化を加えてより良い大会となるよう運営を行う。

4. プログラム委員会の開催実績

活動実績は下表のとおりである。

	場所	日程	議題
定例第 1 回	ビ組	1/20（月）	プログラム委員の役割更新、招待講演者へのアプローチ順決定、会場予約、海外発表数確認、昨年注力コンテンツの継続判断、新コンテンツの検討
臨時第 1 回	Teams	2/3（月）	年次大会会場探索、サプライヤー展示方向性決定
定例第 2 回	ビ組	2/26（水）	招待講演者決定&訪問日程、コンテンツ議論、要旨集議論
臨時(必要に応じて)	招待講演、クラフト、サプライヤー訪問	随時（6 月頃）	招待講演者/クラフト/サプライヤー等の訪問、打診、BCOJ 活動紹介。 ＜実績＞ ・3 月 27 日(木)にボストンビール担当者と Web 会議（秦副委員長、山本委員、加野） ・4 月 17 日(木)に招待講演者（JT 大瀧さん）を訪問（宮部審議役、山本委員、加野）
定例第 3 回	オリオンビール名護工場（サッポロ社対応）	7/17-18(木金)	コンテンツ決定。年次大会プログラムを決定する。本番へ向けての議論
Brewing Summit	Palm Desert, California	8/13-15	金井審議役、山本委員、加野参加
drinktec	Munich	9/15-19	伊藤審議役、加野参加
定例第 4 回	ビ組	10/2(木)	年次大会最終準備
定例第 5 回	ビ組	10/28(火)	大会の流れの確認、直前準備、不足物の発注、関係者への最終リマインド
年次大会	TKP ガーデンシティプレミアム京橋	11/5 14 時集合：準備 11/6, 7	11/5：リハーサル、11/6, 7 運営 （次期プログラム委員同席）
定例第 6 回	サントリー熊本工場	11/17-18(月火)	大会振り返り、次年度活動計画 （次期プログラム委員同席）

以上